

とよ坊かぼちゃんの加工品続々誕生

湖東農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

豊郷町特産物振興協議会では、平成16年より「とよ坊かぼちゃん」(坊ちゃんかぼちゃ)の特産化に取り組んでいます。栽培推進や販路開拓により、今年は3団体と10戸の農業者が計110aに栽培拡大を図ることができました。しかし、加工については昨年までは規格外品の一部をペーストに加工して製菓用として商工会に販売しているものの、特産物振興協議会が商品開発した加工品はありませんでした。

そこで今年は、昨年開設された加工施設「いきがい協働センター」を活用し、「とよ坊かぼちゃん」の加工品をつくることを目標にし、人材の掘り起こしと育成、商品化に向けた加工技術の支援を行ってきました。

【普及活動の内容】

商品化については、加工従事者の確保や加工施設の利用可能時間から、『一度に大量加工し冷凍保存して少量ずつ解凍して販売する方法』なら取り組みが容易と判断し、まず「プリン」を提案しました。それを受けていきがい協働センター職員が中心となって加工活動に関心がある女性を集め試作に入りました。かぼちゃの裏ごし度合い、配合割合、蒸し焼きの温度と時間、省力的な加工方法等を課題に支援を行いました。

続いて丁稚羊羹、蒸しどらやきの商品化に取り組みました。専門家による技術講習会后、当課では加工技術習得と熟練のための試作、包装材の選定、パッケージデザイン等商品化に向けた支援を行いました。

【普及活動の成果】

これらの活動により、プリン、丁稚羊羹、蒸しどらやきをJAの直売所、観光案内所、いきがい協働センター、イベントで販売することができました。特にプリンのかぼちゃの風味を生かした濃厚な味と好評で、年間1,000個の販売目標を4ヶ月で達成することができました。加工者をとよ坊かぼちゃんの生産農家を中心に募集したことが「自分たちの生産物にいっそう付加価値をつけたい」という意欲と熱意を生む結果となり、順調に商品化につなげることができました。次年度は関係機関・団体のネットワークにより新たな商品を開発し、女性起業育成のため引き続き支援を行っていきます。



とよ坊かぼちゃんを使った丁稚羊羹



丁稚羊羹を試作